



2007年度第5号

# やまなみ

サンフランシスコ日本語補習校  
理事会通信

2007年10月6日

## 第3回理事会報告

(藤井理事)

第3回理事会は8月23日(木)に行いました。

\*今年度国内研修に行かれた、主幹の先生方からの報告を頂きました。そして、現地採用教員の「集中研修計画」に基づき、来年度の日本国内研修(2名)、日本からの招聘教員(2名)ということで承認されました。本計画は岩崎前校長の取り計らいのもと、日本の教育委員会との交流が実現したものであり、今後とも友好関係を深めていくことにより、補習校の存在を日本に紹介できることを期待します。

\*高等部運営規定について、いくつかの箇所をより明確化するために、修正・変更することを理事会で承認いたしました。

\*「放課後クラブ」が試行から施行になることを承認いたしました。

\*事務総長より、講師の個別面談および雇用の流れについての報告がありました。また、人事部検討委員会より受けた答申にもあったように、「理事会が人事委員会の決定を最終承認する」ことが承認されました。

\*植木校長から、「学校運営審議委員」募集について説明・報告がありました。また、この名称は堅苦しく感じられるので、新しく「モニター員」と改名致しました。

\*「北米西海岸補習授業校連絡協議会」の最終案内の報告がありました。この会の趣旨は「北米西海岸地区に立地する補習授業校に日本国政府から派遣となった派遣教員等の合同研修を行う機会を設け、近隣派遣教員の交流、情報交換を通して会員相互の指導力向上および各補習授業校の発展に寄与することを目的とする。」です。今回は、サンフランシスコでの開催となり、講師として村山前理事長にご参加頂き、また、実行委員として当補習校の理事長、植木学校長をはじめ派遣教員、主幹、事務局の方々にご尽力頂きました。

\*事務総長から、「平成19年度在外教育施設事務長等会議」の報告がありました。今回の協議テーマは「学校運営における成功事例・失敗事例について」で、児童・生徒数減少による財源基盤の現状についてや、幼稚園児が増加傾向にある現状等の意見交換がされたという報告を受けました。

## 主幹国内研修について

去る7月3日～12日、4人の主幹の先生方が、福岡県糟屋郡篠栗町にて研修を行いました。第3回理事会において各先生からの報告書が理事会に提出され、城田主幹が代表として研修報告を行いました。また、篠栗町の広報誌には、以下のような記事が掲載されました。

～サンフランシスコ日本語補習校の先生が本場の英語を披露～

「日本の教育現場視察のために本校(篠栗北中学校)に来た先生が、3年生の英語の授業に飛び入りし、生徒との交流を深めました。生徒の英語の質問に対し、先生が英語と日本語で答えながら、アメリカのことをいろいろと教えてくれました。話すスピードがとても速く、教科書に出てこないような単語がどっさり飛び出し、生徒は“鳩に豆鉄砲”という顔をしていました。しかし、日本語を交えながら、現地のハンバーガーショップのことや政治の話など、日米の文化の違いを学んだ授業でした。」

## 補習校より帰国した児童の現状と課題

今回の主幹研修による帰国子女の現状視察と担当の先生の講話などから次のようなことが考えられます。

- ①補習校は全教科を学習しているわけでないので、未習教科の学習には遅れが認められる。
- ②国語についても、指導要領が求めている内容を全てを学習させる事が不可能なため、国内の一般児童との格差がみられる場合がある。
- ③国内の学校の規則やマナーが定着していない、もしくは忘れていたために、学級外の友達とのコミュニケーションが取れるまでに時間を要する事もある。
- ④滞在国の言語を保持するカリキュラムは設定されていないが、それらを活用した学級活動や校内行事に可能な限り仕組まれている。しかし、それらを継続カバーすることはカリキュラム上不可能である事も理解できた。

これらの例から考えて、帰国を前提にした児童・生徒には次のような方策が必要と考えられます。

- ①未習教科に関しては、家庭においてできる範囲での指導が必要である。特に芸能教科や体育での可能な実技はできる限り多く体験させておくこと

が望ましい。

- ②国語の学習についても、漢字の習得と音読の必要性、更に家庭での学習支援の重要性があげられる。
- ③国内の学校文化に関しては大きな違いがあるものの、体験したことの良さを失わないように家庭で支援しつつ、集団学習のあり方を身につけさせなければならない。
- ④友達との滞在国での言語を使用した会話は、他の児童から見れば異様な感じを受けるので、双方がプラスとなる指導を学校と連携して進める事が望ましい。また、滞在国の言語の維持活用を希望するなら相応の言語教室等での学習を計画する事が望ましい。

### 人事異動

- 退職 小S J 教員 田代健二 (9月15日付)
- 採用 小S J 教員 友永真智子 (9月15日付)
- 退職 中高S F 教員 稲葉京子 (9月29日付)
- 採用 中高S F 教員 柳原愛子 (10月6日付)
- 休職 中高S J 教員 ウィリアムズ友美 (9月29日付)
- 代行 中高S J 教員 片山智子 (10月6日付)
- 退職 中高S J 教員 檜垣京子 (9月29日付)
- 採用 中高S J 教員 ショーラー郁子 (10月6日付)

### 事務局よりお知らせ

#### 10月、11月の主な行事予定

| 月  | 日  | 行事予定            |
|----|----|-----------------|
| 10 | 6  | 後期始業            |
| 10 | 20 | 授業参観・個別懇談 (中高部) |
| 11 | 3  | 授業参観・個別懇談 (小学部) |
| 11 | 17 | 後期中間テスト (中高部)   |
| 11 | 24 | サンクスギビング休暇      |

#### イヤーブック写真撮影予定日

| 月日    | 対象  |
|-------|---|
| 10/6  | 小S F校 (1, 2年生個人写真、各クラス担任、専科、看護、事務、用務個人写真)                 |
| 10/13 | 小S J校 (3年~6年生個人写真、卒業生集合写真)                                |
| 10/20 | 午前 小S F校 (3年~6年生個人写真、卒業生集合写真、職員集合写真、校長、教頭、主幹、教務主任、生徒指導主任) |
|       | 午後 中高S F校 (職員集合写真)  |
| 10/27 | 中高S F校 (全員の個人写真、卒業生集合写真、生徒会集合写真)                          |

#### 平成20年度高等部生徒募集について

- 12月1日 第2回入学説明会  
保護者向け説明会と生徒への説明
- 12月1日 願書配布
- 1月12日 願書締め切り
- 2月9日 入学試験
- 3月16日 合格通知郵送開始

「やまなみ」はサンフランシスコ日本語補習校理事会により月1回発行されます。

発行人：西郷和義

San Francisco Japanese Language Class, Inc.

760 Market Street, #816, San Francisco, CA 94102

電話：415-989-4535 FAX：415-989-2542

電子メール：理事会・事務局 office@sflc.com、学校 sflci@msn.com

ホームページ：http://sflc.org

理事会および学校事務局へのご意見・ご質問等を歓迎します。匿名でのお問い合わせ等には一切お答えいたしかねます。

無断複製・転載を禁ずる。©2007 All rights reserved.